

## フランス文学専攻（博士前期課程）

### 1. 教育研究上の目的

フランス文学専攻は、フランス文学・フランス語学・フランス文化学の研究分野に関する幅広い専門知識を修得し、方法論的な検討をしつつ、特定の専門研究に取り組むことができ、また、専門的研究を通じて文化・社会について分析・考察を的確にできる能力を有する人材を養成する。

### 2. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

フランス文学専攻（博士前期課程）では、履修規定に即して必要単位を修得し、必要な修業年限を満たした上で、下記の能力を備えていると判断した場合に、「修士（フランス文学）」の学位を授与します。

（知識・技能）

1. フランス語で書かれた研究文献を的確に理解することができる。
2. 自らの研究成果をフランス語で発表できる能力（ヨーロッパ言語共通参照枠B2に相当）を身につけている。

（思考・判断・表現）

3. 専門的研究を通じて、文化、社会、人間について批判的に分析する能力を有する研究者として社会に貢献することができる。

（関心・意欲・態度）

4. フランス語学・フランス文学・フランス文化学の研究分野に関して包括的な専門知識を修得し、方法論的検討をしつつ特定の専門的研究テーマに取り組む意欲がある。

### 3. 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

フランス文学専攻（博士前期課程）では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた能力を修得させるために、以下のような内容、方法等に基づき、カリキュラムを体系的に編成します。

（教育内容）

1. 研究の基盤となる専門知識を習得させるため、「フランス語学演習」「フランス文学演習」「フランス演劇演習」を配置する。（知識・技能）
2. 研究分野に関する先端的知識を深め、高度なフランス語能力を習得させるために「特殊研究」を配置する。（思考・判断・表現）
3. 学生が修士論文の作成について必要な知識や技能を修得できるように、「修士論文指導」

を必修科目として配置する。(思考・判断・表現)

4. 専門分野に関する多種多様な知識の習得のために、他大学院研究科との相互交流協定を通じて相互の履修及び単位の修得ができ、学外の研究機関の設置する課程・研修会等の履修により設定された単位の履修を認める。(関心・意欲・態度)

(教育方法)

1. 講義科目では、幅広い知識を修得させることを目的として、講義法を採用する。
2. 演習科目では、学生自身のプレゼンテーション及び論文作成能力を向上させるため、アクティブ・ラーニングを取り入れた演習を採用する。
3. 指導教授が、きめ細かな研究指導や論文執筆・発表の指導を行う。
4. TAとして学部教育に関与させ、教育経験を積ませる。

(教育評価)

1. 知識・技能の修得に関しては、修士論文による研究成果の審査を通じて評価する。なお、その審査にあたっては、別に定める審査基準に基づいて、総合的に判断する。
2. 講義科目において、具体的な問題に関する報告及び討論を行うなかで、論理的かつ科学的な説明を行う能力、十分に根拠づけられた説得的な議論を構築する能力、及び他者との議論の中で妥当な結論を導いていく能力を測る。
3. 指導教授による演習科目において、専門知識を習得し、自らの知識と思考を用いて具体的な問題を検討し、解決しようとする姿勢と能力を測る。そして、修士論文の審査を通じて、より専門的な学問的能力についての評価を行う。

#### 4. 入学者受入れの方針 (アドミッション・ポリシー)

フランス文学専攻(博士前期課程)では、次に掲げる知識・能力や目的意識・意欲を備えた学生を、各種選抜試験を通じて受け入れます。

(知識・技能)

1. 卒業論文執筆や学部授業科目の履修を通じて、フランス語圏の言語・文化(文学も含む)・社会全般に関する基礎的な知識を広く有している。
2. 抽象的な話題についてもフランス語で理解でき、自らの考えを説明できるフランス語力(ヨーロッパ言語共通参照枠B1に相当)を習得している。

(思考・判断・表現)

3. 研究課題を主体的に見出し考察することができる。

(関心・意欲・態度)

4. 自分の専門分野のみならず、広く文化・社会の諸問題に深い関心を持ち、関連文献の

収集を通して自分独自の考えを形成できる能力の習得に強い意欲を持っている。

以 上